

## 利尻島におけるエゾノキリンソウの記録

佐藤雅彦<sup>1)</sup>・佐藤里恵<sup>1)</sup>・井村有希<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字栄浜 142

<sup>2)</sup> 〒 222-0026 神奈川県横浜市港北区篠原町 1249-8

### An Additional Record of *Sedum kamtschaticum* (Choripetalae: Crassulaceae) from Rishiri Island

Masahiko SATO<sup>1)</sup>, Rie SATO<sup>1)</sup> and Yūki IMURA<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>142, Sakaehama, Kutsugata, Rishiri Island, Hokkaido, 097-0401 Japan

<sup>2)</sup>1249-8, Shinohara-chô, Kôhoku-ku, Yokohama, Kanagawa, 222-0026 Japan

**Abstract.** The first record of *Sedum kamtschaticum* from Rishiri Island was reported by Tatewaki (1941). Although Matsuno (1974) said that this plant was frequently found on the rock near by seashore in this island, there were no records and findings since Matsuno (1984). This short communication gives an additional record of this plant from Ô-karasawa, southwestern mountain area of Rishiri Island in July 2006.

利尻島におけるマンネングサ属 *Sedum* の記録は、エゾノキリンソウ *S. kamtschaticum* Fisch. (館脇, 1941; 松野, 1984) とホソバノキリンソウ *S. aizoon* v. *aizoon* Nakai (たぐぎん総合研究所, 1994) がある。しかし、その自生地についての情報は少なく、筆者らのこれまでの踏査によってもこれらの種を確認することができず、個体数が非常に少ないものと思われてきた。しかし、今回、利尻島南西部の大空沢にてエゾノキリンソウを確認することができたので報告する。

今回の踏査は利尻山における動植物盗掘パトロールの一環として行われたもので、2006年7月8日に利尻郡利尻町仙法志の大空沢上流部で約200本ほどの茎が叢生する本種の株を見つけた (Fig. 1)。上部に付く葉の長さは約2cm前後、茎の高さは約12cmで、5数性、葉の欠刻状の切れ込み、裂開直前の葯が赤色であることなどから本種と判断した。生息場所は50-100cmほどの礫が斜面に積み重なっ

た河原の流木上であり、株のまわりには目立った草本、木本類はなかった。この河原の東側には、ダケカンバ、エゾノバッコヤナギなどの小規模の河畔林をはさみ利尻山源頭部から流れてくる雪解け水が流れていたが、この場所にはここ数年水が流れてくることはなかったように思われた。この河原をはさむ両方の尾根の斜面は、チシマザサによる笹藪と主にダケカンバなどの広葉樹林が覆い、エゾノキリンソ



Fig. 1. *Sedum kamtschaticum* observed at Ô-karasawa, Senhoshi in July 2006.

ウの生息に適した環境を付近に見つけることはできず、その周辺にも本種の別の株を見つけることはなかった。

エゾノキリンソウはベンケイソウ科マンネングサ属に含まれる多年草であり、北海道以外では千島、カムチャッカからの記録がある(清水, 2002)。道内の海岸から亜高山の岩場(梅沢, 1997)や、時には山地のコンクリート製の陸橋の道路脇などにも見られることもある。葉は非常に肉厚で、多数の茎が叢生し円形から楕円形のマット状の塊が形成されることも多い。本種は礼文島の林道の岩場でも確認されているが、それほど数は多くないという(宮本誠一郎氏私信)。松野(1974)では、『この種は山地の岩石の間や上に生えるのであるが、島ではそのような岩石溶岩が海岸に沢山あるのでよく海浜の岩上に見かける』と書かれているが、筆者らの知る限り現在の利尻島の海岸で本種を見かけることはなかった。そのため、8月1日に仙法志御崎海岸、8月29日に杵形岬公園、8月31日に杵形字栄浜の岩場、9月3日に鬼脇字金崎、野中の海岸、9月13日に杵形字神居の海岸において再度本種の発見に努めたが、イワベンケイ *Sedum rosea* は見られるものの、エゾノキリンソウを確認するには至らなかった。

大空沢ではチシマキンレイカ *Patrinia sibirica* が2003年に発見されるなど、利尻山源頭部の岩壁に

自生する植物が時折土石流などで流され標高が低い場所で見つかることがある。しかし、双眼鏡などを利用した源頭部での目視調査ではエゾノキリンソウはこれまで見つかっておらず、今回発見された株がどこからもたらされたものかはよくわかっていない。今後は松野(1974)に記述がある海岸や発見場所付近での詳細な踏査を続け、島内における本属の生息状況の把握を再度確認することが必要と思われる。

#### 参考文献

- 松野力蔵, 1974. 利尻, 礼文両島の高山植物とその景観. 利尻・礼文の自然を守る会. 利尻, 159 pp.
- 松野力蔵, 1984. 利尻島の植物目録と礼文島特産植物目録. 38 pp. 自刊.
- 大場秀章, 1982. 日本の野生植物. 草本II. ベンケイソウ科. 139-152 pp. 平凡社.
- 清水建美, 2002. 山溪ハンディ図鑑8. 高山に咲く花. 山と溪谷社. 東京. 495 pp.
- 伊藤浩司・日野間 彰・たくぎん総合研究所(編著). 1994. 北海道高等植物目録III. たくぎん総合研究所. 480 pp.
- 館脇 操, 1941. 北見利尻島の植物. 札幌農林学会報(34):70-102.
- 梅沢 俊, 1997. 北海道山の花図鑑. 利尻島・礼文島. 北海道新聞社. 札幌. 253 pp.